

開催地名：千葉県浦安市	
開催日時	令和4年9月10日（土） 10：30 ～ 12：00
開催場所	浦安市文化会館
語り部	島田 福男 （宮城県仙台市）
参加者	自治会関係者、自主防災組織関係者 約100名
開催経緯	本市は、想定最大規模の高潮浸水想定でほとんどが浸水する想定となっており、避難計画の策定が課題となっている。また、自主防災組織の高齢化や自治会加入者の減少による担い手の不足が認識されているとともに、東日本大震災で甚大な被害が発生した液状化現象についても、時が経つに連れ風化してきている。このような状況下の中、自治会関係者や自主防災組織関係者を対象に、東日本大震災時の災害伝承の語り部の講演を開催することで、防災意識の認識を高め、避難行動要支援者への避難支援についての意識の向上を図ることとする。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>東日本大震災の災害復旧、復興工事もだいぶ進み、特に仙台市では、遅れていた津波の被害を受けた沿岸部もだいぶ整備された。あのような大災害は、起きてからでは手の打ちようがなく、対応がなかなか難しい。やはり、起きる前に皆で話し合い、日頃から十分に備えておくことが一番大事である。「平時にできないことは災害時にはなおできない」と言うが、まさにその通りだと思う。</p> <p>（2）仙台市の被害状況</p> <p>最も被害の大きかった東北の3県のうち、宮城県で亡くなった方は9,544人、行方不明者が1,213人であった。岩手県では亡くなった方が4,675人、行方不明者が1,110人で、福島県では亡くなった方が1,614人、行方不明者が196人であった。全国では、亡くなった方が15,900人、行方不明者が2,523人である。宮城県の被害が一番大きかったが、犠牲になった方の90パーセントは津波による被害に遭った方である。そして、そのうちの90パーセントは車に乗っていて犠牲になった方である。仙台市は、仙台より南は仙台平野で沿岸部からずっと平坦地が続く。津波はとどまるところを知らず、内陸部5キロメートル地点まで押し寄せた。</p> <p>（3）避難所の状況</p> <p>中心部の避難所は、体育館はおろか、校庭まで人であふれ身動きの取れない状態であった。原因は、帰宅困難者である。指定避難所だけでなく、公的な施設である県庁、市役所、区役所などに人が押し寄せて、中に入り切れなくなった人が道路まであふれてしまった。そのため、地域住民と企業、自治体三者で話し合いをし、災害が起きた場合は、すぐに帰さないで会社にとどめておくなどの協力を企業に求めた。今は、企業において防災教育も盛んに行われている。</p> <p>（4）自主防組織の立ち上げ</p>

昭和 53 年に発生した宮城県沖地震で、仙台市では 28 人の方が亡くなった。原因は津波ではなく、家屋やブロック塀の倒壊が多かった。この地震をきっかけに、仙台市では防災都市宣言を行い、災害に強い都市となることを発表した。具体的には、自主防災組織を町内会単位で結成することに取り組み、東日本大震災発生前年の平成 22 年時点では、結成率は 95.3 パーセントに到達した。

私自身も、平成 14 年に地元で連合町内会の会長になった時、連合町内会に自主防災組織を結成した。そして、平成 22 年 4 月に、地域の 50 団体で、川平地区防災対策連絡協議会を設置した。昭和 40 年代の大規模住宅団地開発により形成された川平地区は、急速な高齢化が進んでいた。300 万円の予算を使い、防災の資機材を購入した。毛布や発電機、投光器、リヤカーなど、一通りの物を用意すると、1 つの倉庫で約 150 万円かかる。震災後はこれでは足りないという意見があり、現在は 3 つの倉庫に 450 万円分を備蓄している。この他に、研修会や講習会において、主に H U G（避難所運営ゲーム）、D I G（災害図上訓練）、クロスロード（分かれ道）という 3 つのカードゲームを行った。平成 23 年 2 月には大体の災害対応計画案が完成したので、ワークショップを開いて、地域住民に説明をした。

（5）震災後の自主防災組織の見直し

仙台市では震災後、地域防災計画を見直した。それまでの防災計画は公助を中心とした、どちらかというと市の職員向けのものであった。しかし、公助では限界があり、市民力、地域力、これを全面に出した自助、共助を生かさないとたない。自助、共助、公助の共同による対策が一番望ましいため、計画を練り直し、当然、避難所運営マニュアルも見直した。それまでのマニュアルは、仙台市一律であり、193 ある指定避難所全部が同じであった。しかし、一律のマニュアルでは到底役に立たないため、193 の指定避難所ごとに地域版避難所運営マニュアルを作ることになった。今はそれによって避難所の運営訓練などを実施している。



開催地より

自主防災組織の必要性や防災計画の大切さについて、改めて認識することができた。今後の防災活動に参考になる点が多かったので、今後の自治会及び自主防災組織での活動に役立てていきたいと思う。